

五期俳句会第百八十一回 九月六日

句会の方式ではなく全作品を発表するのはどうか?と提案しましたが。色々議論の末
兎も角今回は今までどおりになりました。

坂道の彼方に塔と鯛雲

塩田亘子

松虫草愛でし山友惚ばれて

松浦武子

茄子の色塩もむ色の空に染む

今井由紀子

秋立つや今朝の窓辺の風軽し

今井由紀子

どんと鳴る響きに気付く遠花火

塩田亘子

洛北の古刹に早も法師蝉

松浦武子

踏切の地蔵に供ふ野菊かな

松浦武子

じいじいと夕べ秋蝉古墳塚

今井由紀子

溶けそうに沈む夕日や葉月尽

塩田亘子

このごろは髪を気にせず夏帽子

久貝貞子

軒並みに提灯揺れて秋祭り

今井由紀子

雨止むや裏庭の木の蝉しぐれ

久貝貞子

濃き紅は誰を恋ふるや吾亦紅

松浦武子

葛の花今は根を掘る人もなく

松浦武子

憂きことも猛暑も無心経写す

塩田亘子

浅香さんが句風が合わない、とお辞めになり、今井さんは車で来られていたのですが、お家の方に止められて、退会なさいます、三人では無理なの

で今回を持ちまして終了と致します。長い間お読み頂いた方、有難う御座
いました。